池の環境

池はそのほとんどが、水田など農地への水の供給を目的とした人工的なため池です。大阪府では、南部の平野に多くのため池がみられます。ため池は、最近では埋め立てられてしだいにその数が減ったり、農地が減るにしたがい放置されたり、水質が悪化したりしています。ため池の規模も、岸和田市の久米田池や大阪狭山市の狭山池のように大きなものから、山すその棚田の奥にあるごく小さなものまでさまざまです。

平地の大きな池

大きな池にはたくさんの生きものがすんでいそうですが、堤や岸辺がコンクリートなどで整備されていることが多く、実際にはあまり多くの生きものはすんでいません。しかし、大きな池の中央には、冬にはハシビロガモやホシハジロ、コガモなどのカモ類やカイツブリなどの水鳥たちがたくさん集まってきます。ここは、人が容易に近づけない数少ない安全地帯なのです。魚を食べるカワセミもよくみることができます。

最近は、ブラックバス（オオクチバス）やブルーギルなど肉食性の外来魚を放流して、釣りを楽しむ人が増えたため、メダカやカワバタモロコ、ニッポンバラタナゴなど昔からすんでいた日本の魚たちが食べられて、絶滅してしまった池も少なくありません。このような外国産の魚を勝手に放流することは禁じられていますが、一度放してしまうとどんどん増えるので、このままだと被害はさらにひろがりそうです。

トンボ類では、このような大きな池を好むオオヤマトンボやギンヤンマ、ウチワヤンマ、タイワンウチワヤンマなどをみることができます。

74. 森 正人　75. 松村 伸夫　76. 宇都宮 靖博　77. 山上 将史　78. 佐々木 祐二

74. 平地の大きな池

75. カワセミ

76. ギンヤンマ

77. ブラックバス　（オオクチバス）

78. ホシハジロ

山の小さな池

山間の谷間の奥などでは、水がきれいでわりあい浅く、水生植物がたくさん生えている小さな池があります。水生植物のグループには、全体が水中に生えるクロモやマツモなど（沈水植物）、根は池底にあって葉だけが水に浮かんだヒルムシロやヒツジグサ、ヒシなど（浮葉植物）、体が水面から抜きでて水際に生えるヨシやハナショウブなど（抽水植物）に大きく分けられます。これらの水生植物が生えるには、水深が比較的浅いこと、岸辺がなだらかなことなどの条件が必要です。特に、沈水植物は光が水中まで届くような透明な水が必要です。このような水生植物の多い池は、動物たちにとってよい餌場となり、またかくれがにもなって、池をめぐる豊かな生態系が形づくられています。

例えば、北摂地域でモリアオガエルが繁殖するのもこのような池です。昆虫類も多く、ヨツボシトンボ、ショウジョウトンボ、チョウトンボ、クロスジギンヤンマ、アカネ類（アカトンボの仲間）などが季節をおって発生し、ゲンゴロウやガムシ、タガメなどの水生昆虫の生活場所としても適しています。しかし、このような池は今ではめったにみることができず、昔は普通にいたゲンゴロウも、大阪府で確実にみられる場所はなくなってしまいました。

79. 山の小さな池

79,82,83,86. 森 正人　80. 佐々木 祐二　81,85. 佐々木 凡子　84. 北野 忠

80. モリアオガエル

81. ミヤマアカネ

82. モリアオガエルの卵塊（らんかい）

83. タガメ

84. ゲンゴロウ

85. ノシメトンボ

86. チョウトンボ